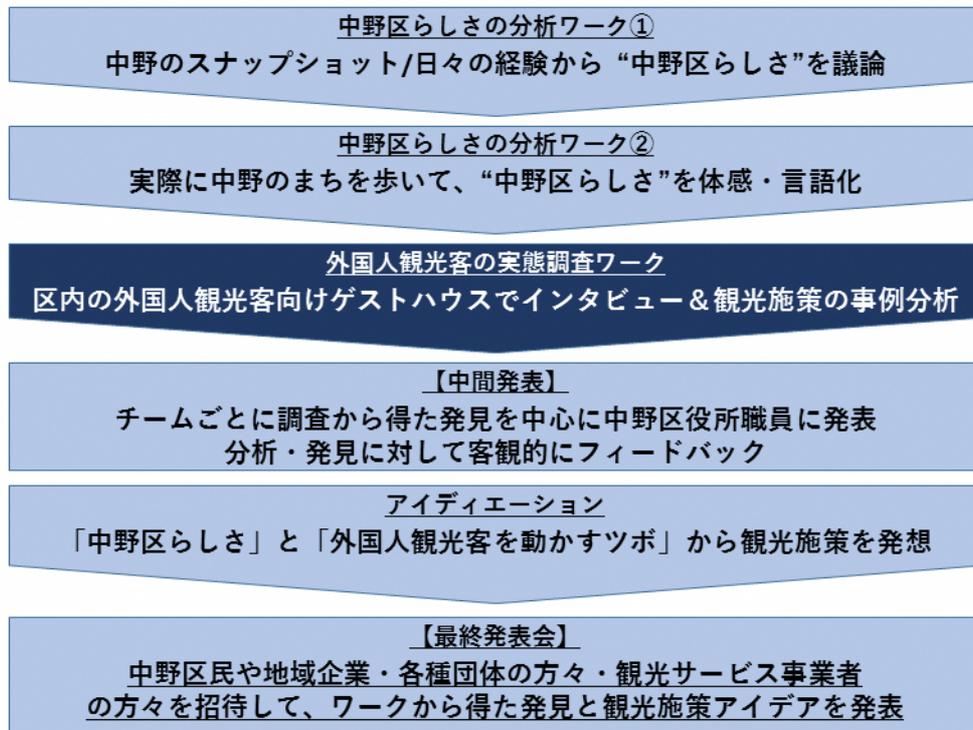


前回のワークでは、中野駅周辺をタウンウォッチングして、実際にまちを肌で感じることによって、「中野区らしさ」をより深く理解したり、新しい側面を発見することができました。今回は、中野を訪れる外国人観光客が、期待することや不満に感じることを分析することによって、外国人観光客の心を動かす施策のポイントを探ります。

ワークショップ全体の流れ



第3回のワーク:「外国人観光客」の実態調査

今回のワークでは、中野区内の外国人観光客向け hostel「やどやゲストハウス」の山本真梨子さまに、中野を訪れる外国人観光客の期待や悩みについて、お話をお伺いしました。

山本さんは、ご自身がバックパッカーだった経験から、「中野にも旅人や外国の人たちが気軽に使えるゲストハウスを作りたい」と思いたち、やどやゲストハウスを開設したそうです、現在も日々、中野を訪れる外国人観光客に中野の魅力を伝える活動をしています。外国人観光客と中野地域住民の交流の場として、「誰でも参加可能な「ワンコインディナー」を開催したり、中野

区のディープな魅力を外国人観光客に楽しんでもらうために「オリジナルローカルマップの作成・配布」をするなど、多彩な活動に力を入れています。



山本さんにはまず、その志や、やどやゲストハウスを日々運営する中で感じていることとお話して頂き、その後、学生より、大学で学んでいても、なかなかリアリティーを掴めない「外国人観光客の実態」について、質問させて頂きました。

外国人観光客の心を動かすツボ

このセッションを通して、外国人観光客の視点を意識することで、これまでは見えなかった「中野区の魅力」を沢山発見することができました。

まず、外国人観光客にとって「セントラルパークで人々がお酒を飲んでいる光景」が新鮮に映るということが分かりました。海外では、治安などの問題から、屋外で飲酒することが禁じられている地域も多いそうです。治安のいい日本だからこそ、開放的な屋外でお酒を飲めることに強い魅力を感じる外国人観光客の方が多くいるそうです。特に中野のセントラルパークは、子どもと親がべったりとくっつかず、子どもたちがのびのびと駆け回っている姿にも、治安のよさが表れているとのことでした。このように、治安が良いために生まれるポジティブな"ゆるや

かさ"や"調和力"は、「中野らしさ」を解き明かすうえで、これまでのワークでは、発見されなかったものでした。中野区民の"他人への信頼"や"心地良い調和"が生み出す平和な風景を探ることが、外国人観光客にとって、魅力的な体験をつくるためのポイントになると考えられます。また、中野区の街中にある小さなローカル神社も、外国人観光客に人気であることが分かりました。まちを歩いていて、突然現れる小さい神社に、「日常の中にひっそり溶け込む日本人の宗教文化」を感じるそうです。このように、「観光客向け」の有名なスポットだけではなく、「地元の人が親しむ」小さなスポットを体感することで、中野の"暮らし"を味わうことができるという観光体験のあり方は、外国人観光客の心を動かすポイントになりそうです。

次回にむけて

今回発見した、外国人観光客が中野区に期待していることは、実際に現場の話を聴かないと見えてこないものでした。特に、私たちにとっての当たり前風景の中に、外国人観光客が新鮮で魅力的に感じるものが数多くあるということは重要な発見でした。

今回は、これまでまちのスナップショットを元にしたディスカッションやタウンウォッチング、外国人観光客視点の分析を通して発見した「中野区らしさ」について、中間発表します。チーム間でお互いに意見を出し合うことによって、それぞれの視野を拡げたり、分析をより深めることを目指します。